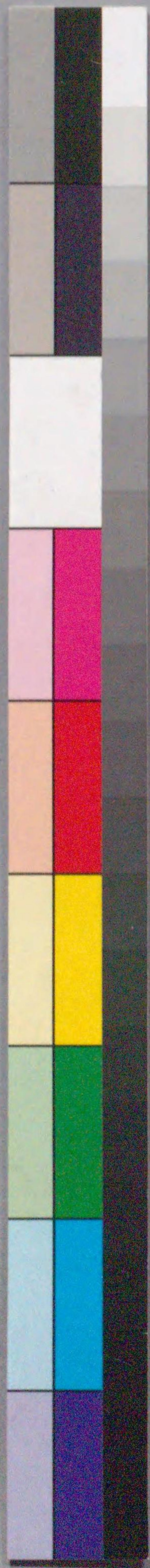


春色墨田川

二

207
3
798



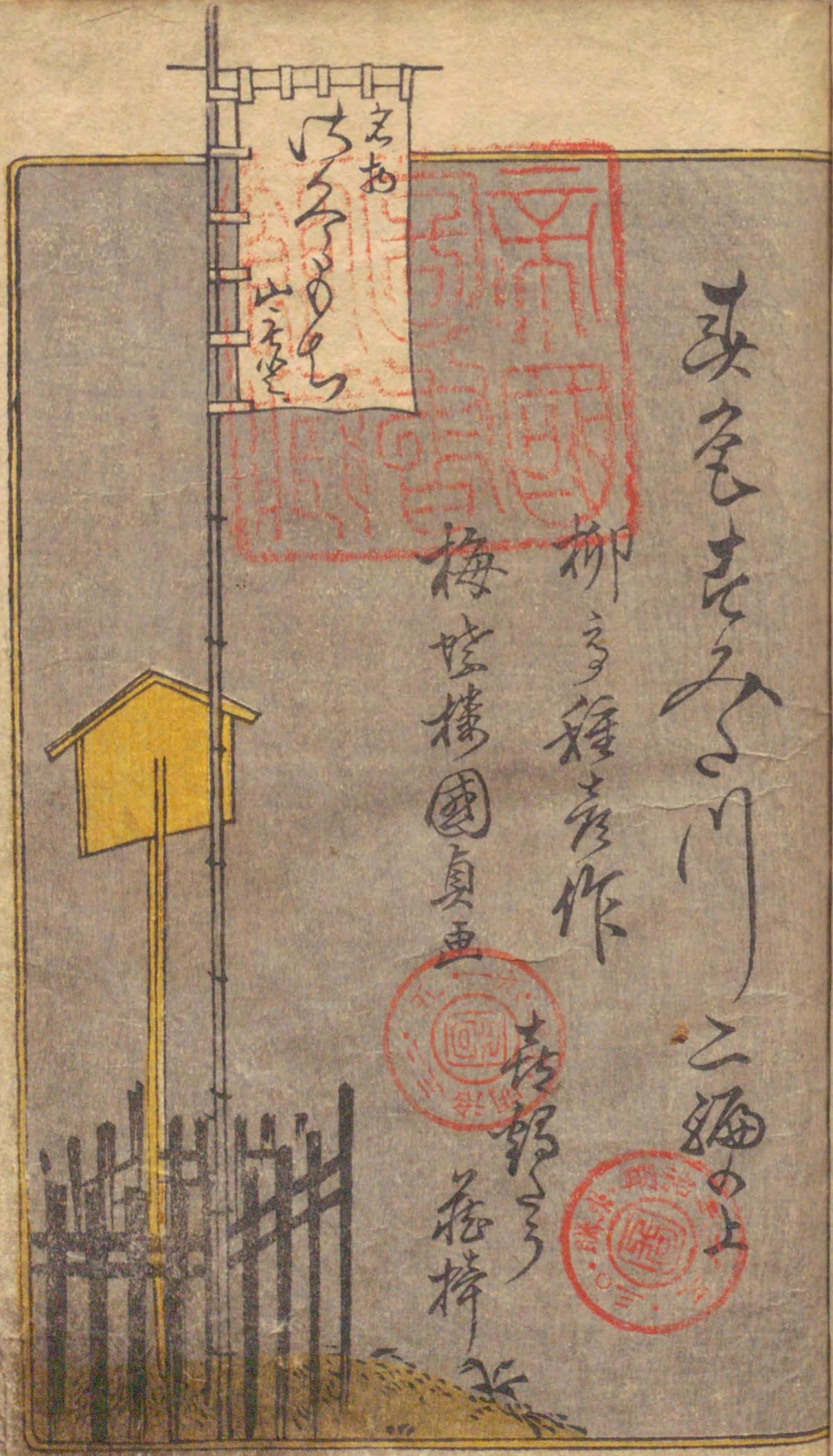
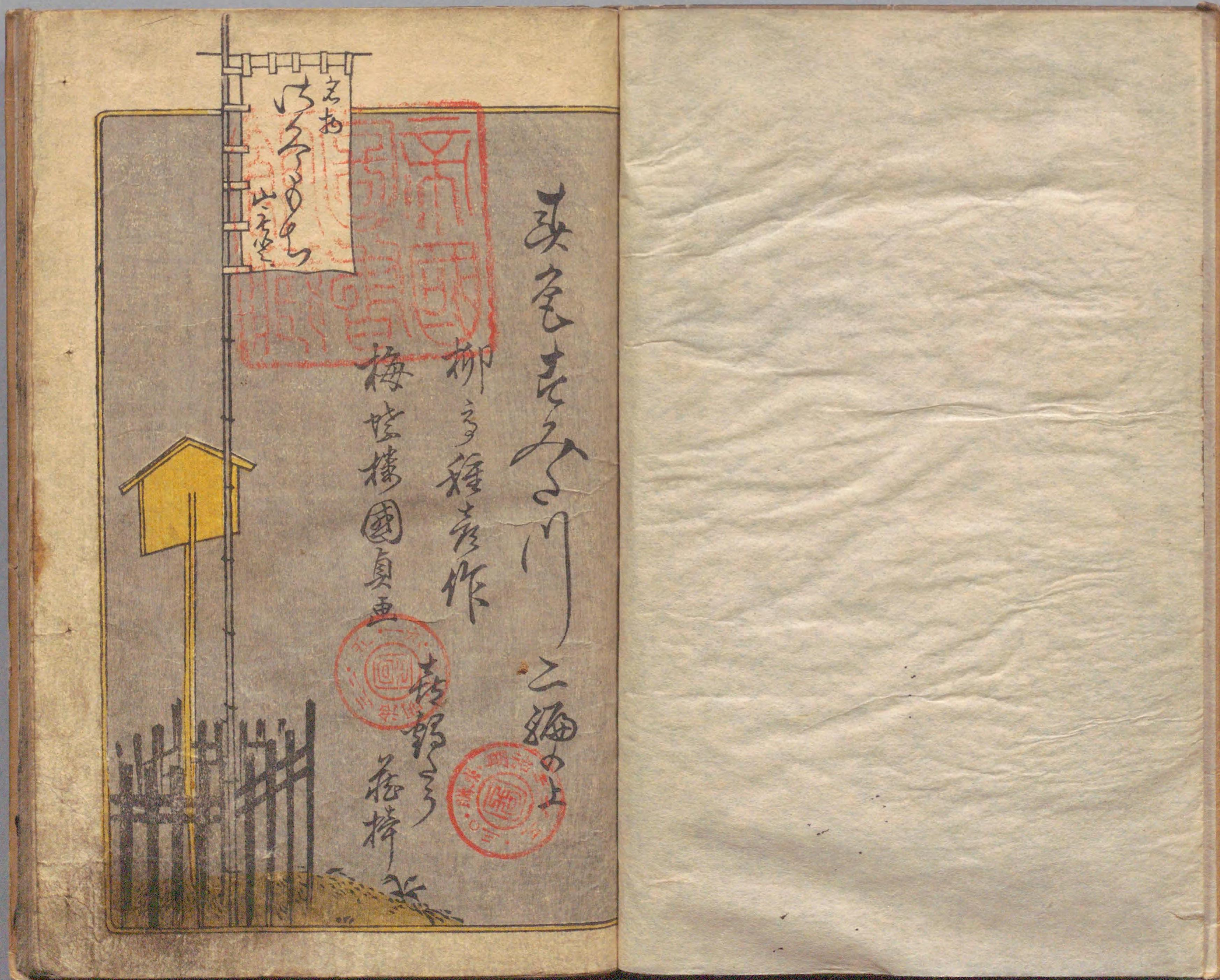
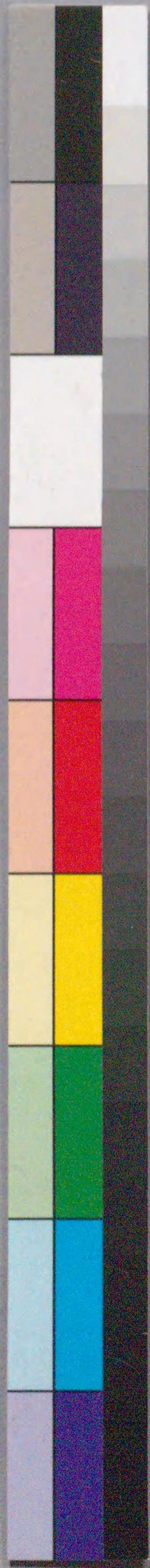


207
3
798

国立国会図書館 春色墨田川 3編12巻 207-798

ガラス使用





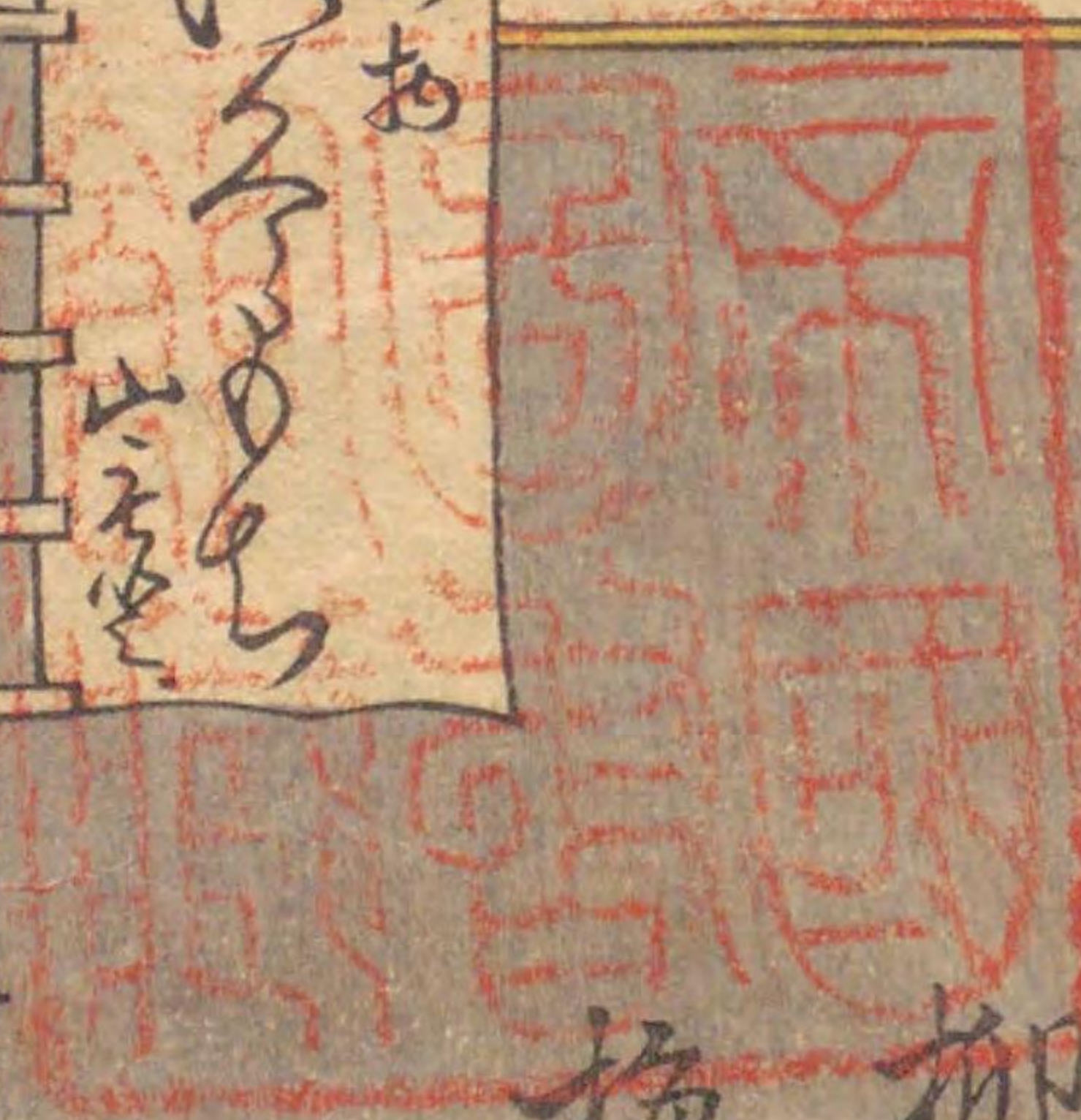
英名志乃門 乙彌の上

柳多種彦作

梅壇樓國貞画

名物
山手
山手

春朝
春梓



春色隅田川

種彦

作

國貞画



二編上

喜鶴堂

大塚本 文庫

二編下



春色墨田川二編下

柳多
因
憂

佐の在を巻

朱樹士朗叟の筆遊小 面白く虚言つて人小對して
 うその月雪花郭公とかまう俳諧と学人の極
 意を我戯作も亦復同ト世事と當座の間合せ人小
 對して虚誕を放けど唯ちのろろ云五文字自己物小
 事至く難く是小苦しむる卅年今も素の老をわて面
 も磨く傾元頭上平生月夜白髪の雪水梯のそら穢き徒老
 山郭公の声あゝ血を吐くもひを綴る著述の佳らう苦みけれ
 不圖かき流る墨田河目路もろろ雪の場も初編限
 けを年と氣張弓も案は初手ろろの顔もせも程時
 過を又声二編の趣向も未蒼弥見所あゝこれと三帙あま
 補景の櫻餅の花を
 見ゆ人の山本を祈るれ
 むらの虚言あらず

癸亥春
種彦誌

墨田川二編











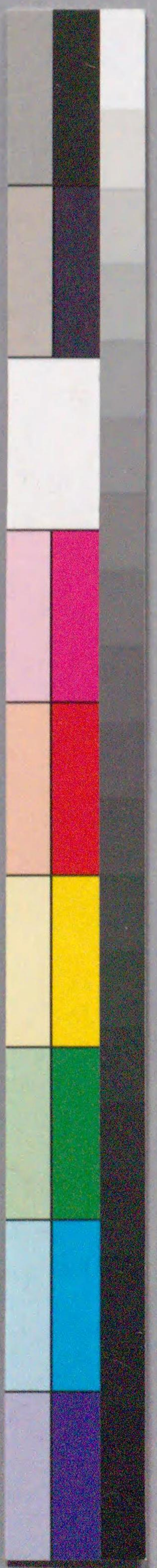
















墨田川二編

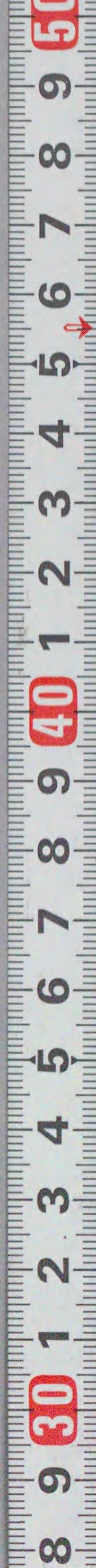








8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 6 7 8 9 50

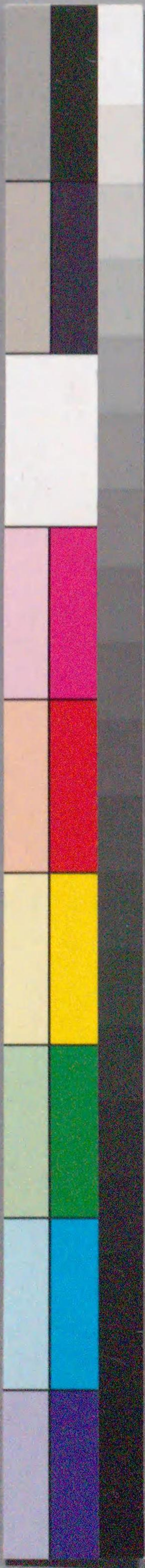


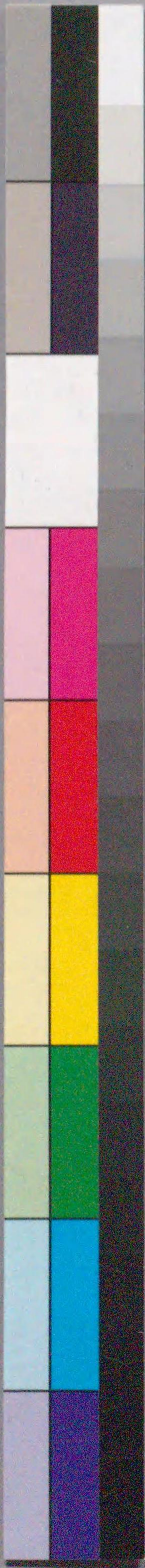










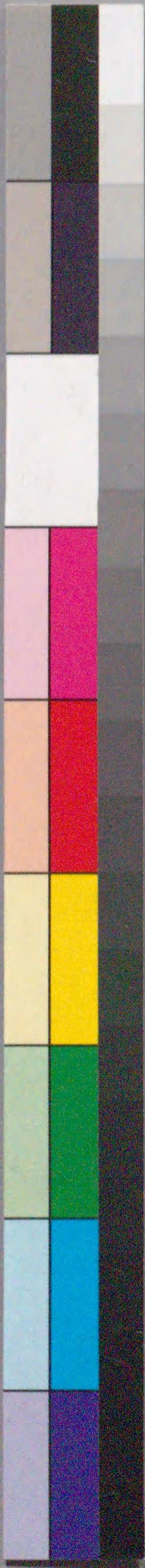




墨田川二編

此發の名
二編あり

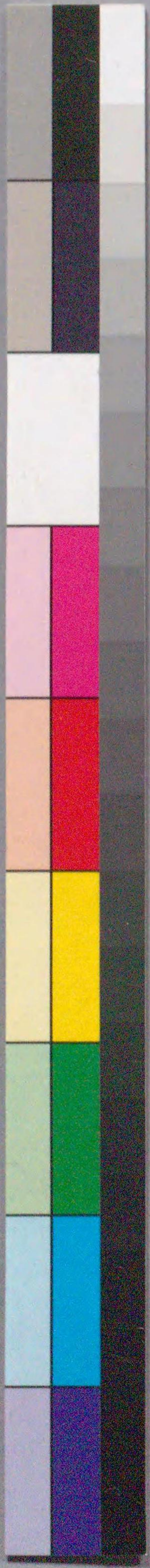




野矢普園貞画

筆書青紙





種彦著國貞画



あまのりやうらやうらとて
あこころんかかかかか
ちんちんあまのりやうらとて
さなな

浄書 青洲

墨田川





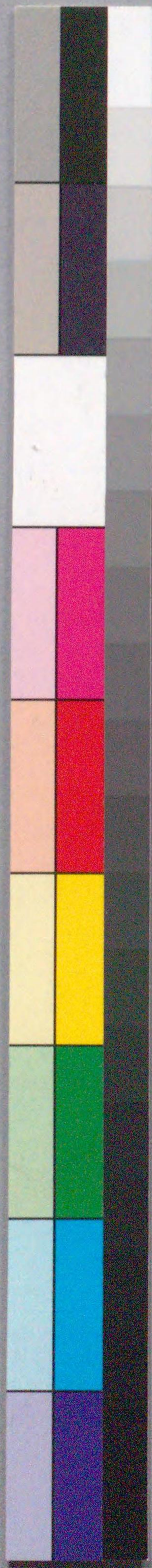
国立国会図書館

春色墨田川 3編12巻 207-798

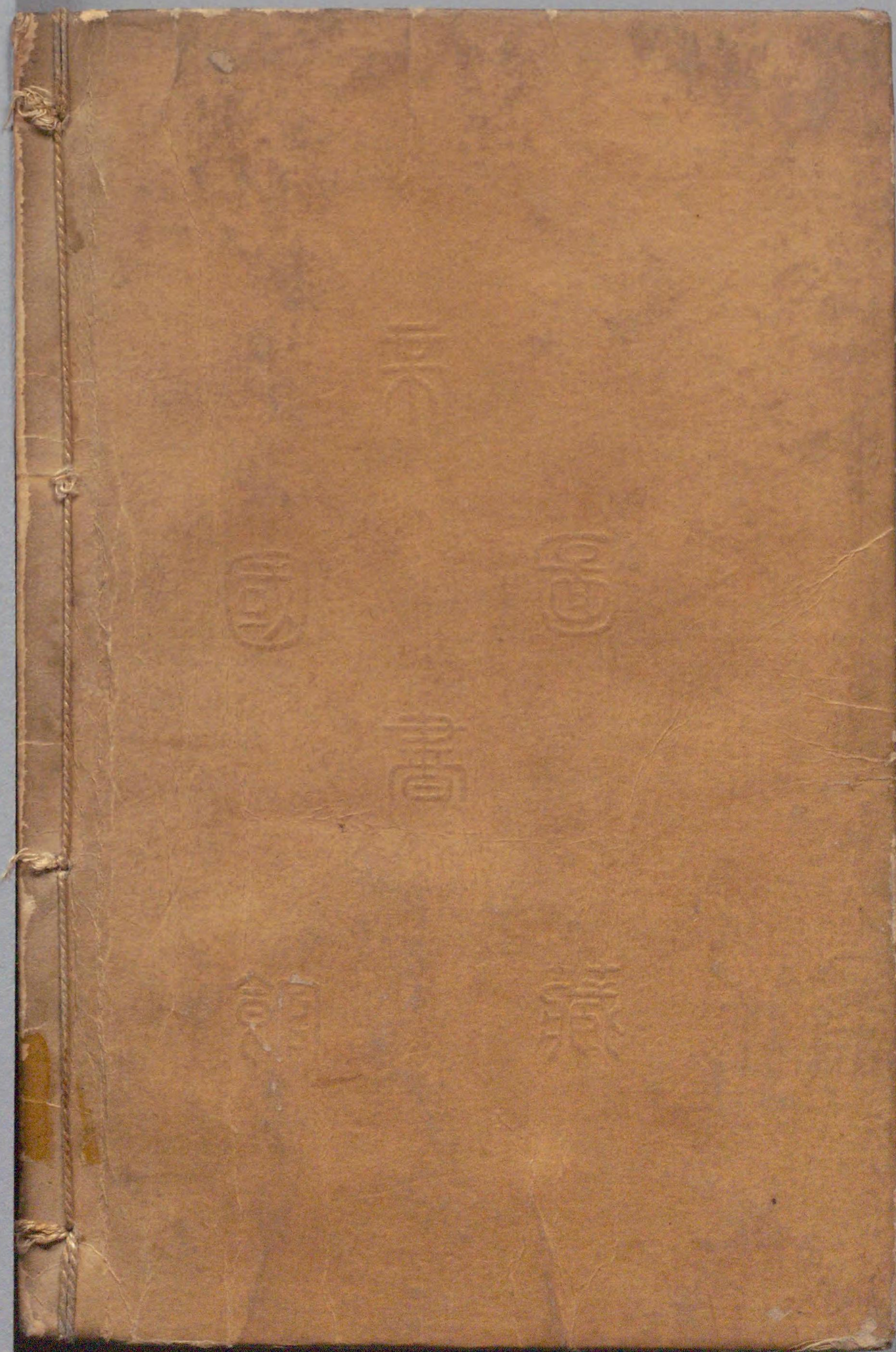
ガラス使用

207
3
798





国立国会図書館 春色墨田川 3編12巻 207-798



ガラス使用

